



定員割れ私大、今春は29・1%…2極化進む

今春の入試で、入学者が入学定員に満たなかった私立大は29・1%に上ることが3日、日本私立学校振興・共済事業団の調べで分かった。

昨年度より0・9ポイント増え、2001年度の30・2%に次ぐ高い割合。学校数では統計のある1989年度以来最多の155校となった。一方、私立短大の定員割れは41・0%（164校）で、昨年度より4・7ポイント改善した。

調査は今春、学生募集をした私立大・短大のうち、通信教育部だけの学校と株式会社設置の学校を除く、533大学と400短大を対象に行った。

私立大は、短大からの改組などで昨年度より12校増加。全体の入学定員も0・4%増えたが、志願者は4年ぶりに減少した。短大は募集停止などで昨年度より16校減少し、入学定員も8・4%減る一方で、志願者が12年ぶりに増加に転じた。

同事業団では「大学は人気校とそうでない学校との2極化が進み、厳しい状況が続いている」と分析。短大の改善については「人気のない学科の改組や資格取得に力を入れるなどの改革の成果が出たと思うが、下げ止まりかどうかは、分からない」としている。

こうした中、新入生が定員の5割に満たない学校は、私立大で15校、短大で20校あり、充足率が7・3%の大学や、9・6%の短大もあった。

(2004/8/3/19:51 読売新聞)

